

安全報告書【2021年度】

1 ごあいさつ

日頃より、ニューシャトルをご利用くださいますこと誠にありがとうございます。

また、新型コロナウイルスの感染拡大防止に関する当社の取り組みにご理解・ご協力をいただきまして、重ねて御礼申し上げます。

2020年度は、向こう5ヶ年にむけた中期経営計画「地域と翔ける、安全輸送のニューシャトル」の初年度であり、その目標達成に向けて社員一丸となって取り組み始めた矢先に新型コロナウイルスの感染が拡大しました。二度に亘る緊急事態宣言等の発出により、お客さまのご利用は激減し、対前年比70%台まで大幅に減少、鉄道収入も大幅な減収となりました。今年度は、将来にわたり質の高いサービスをお客さまへ提供し続けるために、コスト削減等により経営改善を図っていかねばなりません。決して安全を損ねることのないよう努力を継続し次の時代に向けて大きく変革すべき重要な年度として取り組む決意であります。

昨年10月、運輸安全委員会より2019年1月に発生した当社加茂宮駅・鉄道博物館駅間における列車脱線事故に関する事故調査報告書が公表されました。本件事故では、幸いにもお怪我をされたお客さまはいらっしゃらなかったものの、ご利用のお客さまをはじめ、大勢の皆さまにご迷惑とご心配をおかけしました。ここに改めて深くお詫びを申し上げます。当社は、報告書の内容を厳粛に受け止め、同様の事故を二度と起こさないことはもちろん、この事故を教訓としてさらなる安全・安心の向上を目指してまいります。

当社の最大の使命は、この地域の唯一の鉄道会社として安全・安定輸送を前提に、地域の皆さまに愛され信頼ある輸送を今後とも担っていくこととあります。地域の皆さまに支えられて今日まで来た当社が、将来も「この沿線に住みたいと思っただけ、選ばれる鉄道であり続ける」ことを目標に社員一丸となって取り組んでまいります。

この報告書は、鉄道事業法に基づき、2020年度に実施した私たちの安全に関する取り組み状況などを、皆さまにお知らせするために作成いたしました。是非ご一読いただき、輸送の安全・安心の確保に向けた取り組みをより確かなものとするため、ご意見、ご感想をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

令和3年6月

埼玉新都市交通株式会社
代表取締役社長
唐澤 朝徳

2 安全に関する基本的な方針

安全綱領を安全確保の最大テーマとして、全社員に周知、徹底しています。

(1) 企業理念

企業理念

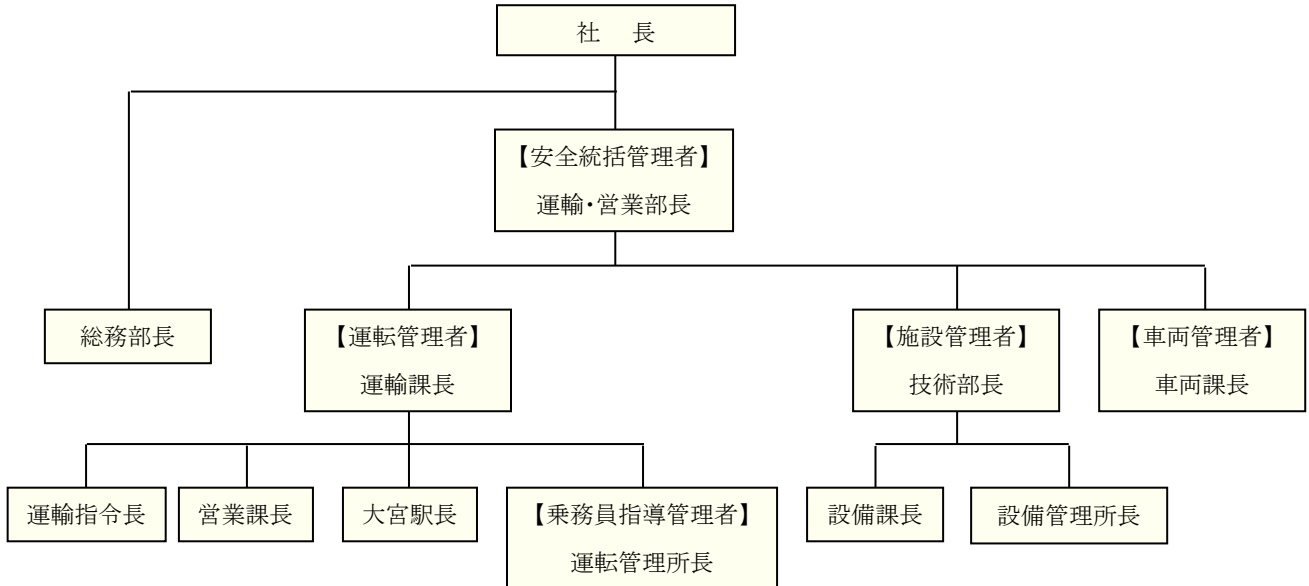
私たちは、安全を第一として、安定した輸送とおもてなしの心を込めた良質なサービスにより、社会に貢献する地域に根ざした会社を目指します。

(2) 安全綱領

安全綱領

- 一、安全は輸送業務の最大の使命である。
- 一、安全の確保は、規程の遵守及び執務の厳正から始まり、不断の修練によって築きあげられる。
- 一、確認の励行と連絡の徹底は、安全の確保に最も大切である。
- 一、安全の確保のためには、職責をこえて一致協力しなければならない。
- 一、疑わしいときは、最も安全と認められるみちを採らなければならない。

3 安全管理体制



役 職	役 割 ・ 責 務
社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、乗務員の資質(適性、知識及び技能)の維持に関する事項を管理する。
施設管理者	安全統括管理者の指揮の下、鉄道施設に関する事項を統括する。
車両管理者	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する。

4 安全管理の実施状況

「お客さま、社員の死傷事故「ゼロ」を確保します」を安全目標に掲げ、次のような取組みを実施しています。

(1) 現場巡回

各種安全運動期間中に限らず、社長以下役員を含め本社管理職の社員が各職場を巡回し、安全に対する取組み等を確認するとともに、全社員に対して安全意識の高揚及びコミュニケーションを図っています。

(2) 定例会議

① 運転事故防止検討会

管理職(助役)以上の社員が参加し、毎月1回開催しています。前月の車両故障等や事故が発生するおそれのある事例、社外で発生した事象などを収集・紹介するとともに、原因や背後要因等を分析・議論し、「事故の芽」を事前に摘みとる取組みを行っています。

② 車両故障連絡会議

管理職(助役)以上の社員が参加し、四半期に1回開催しています。車両故障の原因について、ハード面及びソフト面から分析・議論しています。

③ 運輸安全マネジメント

運輸指令、大宮駅、運転管理所、設備管理所、車両課を対象に内部監査を2020年11月下旬～12月中旬に実施しました。毎年複数の内部監査員に「運輸安全マネジメントスキルアップ研修」を受講させて内部監査体制の強化を図っています。

④ 業務委託会社との検討会

車両整備業務委託会社と当社車両課による品質向上検討会を毎月1回開催し、車両故障の原因についての分析・議論しています。また、車両整備内容の確認、在庫品の確認等を行い、車両整備が予定どおりに進捗するように検討しています。

(3) CS(チャレンジ・セーフティー)活動

職場ごとに、安全に対する各社員からの意見交換を行い管理職社員がフォローする形で実施しています。現場社員からの「ヒヤリハット」、「事故の芽情報」等は、ポータルサイトを活用し情報の共有化を図っています。

① CS全体会議

年間3回実施 社員一人ひとりが自ら考え、更なる安全を目指しています。



(4) 安全研修

過去に起きた事故の悲惨さや社会的責任の重大さなどを学び、安全意識の向上を図りました。研修では、社長による安全講話のほか、事故の歴史展示館(JR 東日本総合研修センター)を通じ、安全の重要性を学びました。

5 事故の発生状況

2020年度の輸送障害、事故等の実績は以下のとおりでした。

- (1) 鉄道運転事故(衝突、脱線、火災など、または死傷者の発生に至る事故)
発生はありませんでした。
- (2) 輸送障害(列車の運休、または30分以上の遅延が発生した事象)
発生はありませんでした。
- (3) インシデント(鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事象)
発生はありませんでした。

6 2019年1月に発生した列車脱線事故と再発防止措置

- (1) 発生日時 2019年1月16日(水) 11時03分頃

(2) 概況

加茂宮駅～鉄道博物館駅間を走行中、当該列車の運転士が列車後部からの大きな音を感じたため列車を非常停車させました。停車後、車両を確認したところ、進行方向6両目(最後尾)の車体前部が左へ約50cmずれ、前軸左のタイヤが損壊した状態で走行路から逸脱していました。また、前軸右のタイヤも破損していました。ご乗車のお客さま約100名には、鉄道博物館駅まで避難誘導を行いました。この事故で、怪我をされたお客さまはいませんでした。

(3) 事故の原因

進行方向6両目(最後尾)の前軸左タイヤの破損によって空気圧が急激に低下し、タイヤが破損したまま走行したことにより中子が損壊し、案内輪が案内軌条の下方に外れて走行輪が走行路から逸脱したためと推定されます。

(4) 対策

① 緊急対策

事故直後から緊急対策として以下の取組みを実施しています。

- (ア) 乗務員は乗務前に車両状態(傾き)を目視により確認する。
- (イ) 列車検査時にタイヤ摩耗状態を確認する。
- (ウ) (イ)の際に異常を認めた時は速やかにタイヤを交換する。

(エ)その他、異音発生時の検査の徹底

② 恒久対策

緊急対策と併せて、恒久対策として以下の取組みを実施しています。

(ア)タイヤ内圧監視装置の導入(2021年3月 全編成で使用開始)

(イ)車両検査(全般検査、重要部検査、月検査)でのタイヤ溝測定箇所の追加

(ウ)タイヤ交換時期の検討方法見直し

7 安全確保のための取り組み

(1) 各種訓練

① 運転士の教育訓練

年8回 応急処置、異常時の運転取り扱いを中心に、現車を使用した訓練を実施しています。

6月、9月は運輸指令と合同訓練を実施し、指令員と連携の強化を図っています。

② 指令員の教育訓練

年5回 運転整理、異常時の取り扱いを中心に訓練を実施しています。

6月、9月は運転管理所と合同訓練を実施し、運転士と意見交換を行っています。

③ 施設・電気保守係員の教育訓練

設備故障時の早期復旧・異常時対応能力の向上を目的とし、安全作業教育、転てつ器取扱訓練、遮断器取扱訓練、入換合図・誘導訓練、分岐器解体復旧訓練を実施しています。

日々の工事着手前打合わせにて PKY(Planning Kiken Yochi)等により、工事請負会社と互いにリスクを共有しながら施工方法と安全対策の確認を行っています。

④ 防災訓練

2020年9月1日(火)、大規模地震発生時の初動対応に特化した実践的な訓練を通じて、発災時の適切な対応行動を身に付けるとともに、初動対応の検証を行い防災体制の向上を図りました。

訓練は、災害対策本部設置訓練、非常参集訓練、安否確認訓練、装備品・備蓄品の点検を実施しました。



災害対策本部機器の接続確認



情報伝達経路の確認

(2) 運転士の健康管理

① 仕業前点呼時の健康状態の確認及びアルコール検査

管理者と対面による心身の健康状態の確認を行っています。このうち、酒気帯びの有無の確認については、目視等によるほか、アルコール検知器を用いて行っています。

② SAS(睡眠時無呼吸症候群)検査

スクリーニング検査を定期的実施し、SASに起因する事故の防止に努めています。スクリーニング検査で精密検査が必要と判断された場合は、指定の病院で精密検査を実施しています。

(3) こども110番の駅

沿線の子供たちを、事件・事故等のトラブルから守るため、全駅を「こども110番の駅」とし、安全かつ安心してご利用いただける駅づくりに取り組んでいます。

(4) 事業所自衛消防組織

火災発生時の緊迫した状況においても、迅速かつ適切な行動が行えるよう自衛消防訓練を実施しています。



屋内消火栓の確認



避難誘導経路の確認

8 安全を支える設備および取り組み

安全を支える主要な設備として、列車保安方式はATC(自動列車制御)装置を、進路制御にはARC(自動進路制御)装置を採用しています。

ホーム上の安全設備については、非常列車停止装置を2018年に増設し、充実させてまいりました。また、ホーム転落防止柵、内方線付点字ブロック、CPライン及び指令員と直接通話ができるインターホンを設置しています。

車両については、ホーム反対側のドアが開かないよう誤開扉防止装置を導入しています。また、車内の安全確保及び犯罪防止のため防犯カメラを全車両に設置しました。

その他、AEDは全駅に設置されており、防犯カメラについても全駅の改札口周辺及びホーム上の映像を総合指令所で集中管理している他、大宮駅等でも確認できるようにしています。

9 お客さまへのお願い

- (1) 不審物を発見された場合は、触らずに駅社員、運転士またはインターホンにてお知らせください。
- (2) 発車間際の駆け込み乗車は大変危険です。無理をせず次の電車をお待ちください。
- (3) 電車には優先席を設けています。乳幼児をお連れの方、妊娠している方、お年寄りの方、お身体の不自由な方等には席をお譲り下さい。また、車内には、車いす・ベビーカー等優先スペースを設置しております。優先スペースの譲り合いにご協力をお願いします。
- (4) 車内では、スマートフォン等はマナーモードに設定の上、通話をご遠慮ください。また、優先席付近では、混雑時は電源をお切りください。
- (5) スマートフォン等を見ながらの歩行は、他のお客さまと接触するなど大変危険ですので、お止めください。
- (6) 電車は危険回避のため、急ブレーキをかける場合があります。車内では、つり皮、手すりにおつかまりください。
- (7) 障害のあるお客さまがお困りのときは、お声かけをいただきますとともに駅社員、運転士にお知らせください。

10 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

彩の国「新しい生活様式」安心宣言(当社版)により以下の対策を実施しています。

- (1) お客さまに関する対策
 - ① 3密を徹底的に回避します
 - ・ 車両の常時換気
 - ・ 混雑状況の情報提供
 - ・ テレワークや時差通勤の呼びかけ
 - ・ 車内ではマスクを着用し、会話を控えることの呼びかけ
 - ・ 社会的距離の確保（券売機や窓口での間隔確保のご案内）
 - ② 感染防止の対策を行います
 - ・ 手の触れる箇所の消毒（駅、車両）
 - ・ マスク、ティッシュ専用ごみ箱の設置
 - ③ 安全のための設備にします
 - ・ アルコール消毒液の設置（大宮駅、鉄道博物館駅）
 - ・ ビニールカーテン等の設置（改札口及び売店窓口）
 - ・ ハンドドライヤーの使用中止
- (2) 従業員に関する対策
 - ① 3密を徹底的に回避します
 - ・ 建物の換気（機械換気、窓の開放）
 - ・ マスクの常時着用
 - ・ 社会的距離の確保（会議の人数制限等）

- ② 感染防止の対策を行います
 - ・ 症状のある従業員の出勤制限
 - ・ 出勤前の検温実施
 - ・ 手洗いや手指の消毒、うがいの励行
 - ・ ドアノブや共用物品の消毒
 - ・ トイレのフタを閉めてから水を流すことの励行
- ③ 安全のための設備にします
 - ・ 出入口等に消毒液を設置
 - ・ 机上間仕切りによる遮蔽
 - ・ 共通タオルの廃止
- ④ 極力制限します
 - ・ 対面での食事や会話の制限
 - ・ 休憩する場所の分散
- ⑤ 新しい働き方に向け努力します
 - ・ 同時に出勤する人数の制限

11 お問い合わせ

今後の安全対策やより安全で信頼される鉄道をつくるために、皆さまからのご意見・ご感想をお寄せください。

埼玉新都市交通株式会社

ホームページ <http://www.new-shuttle.jp/>